医療ホットライン
産婦人科

友人が婦人病の治療で漢方を取り入れていて、関心があります。治療について教えてください。

フォレストベル クリニック
磯部哲也先生
大阪大学医学部卒業。日本東洋医学会認定漢方専門医、日本生殖医学会認定生殖医療専門医

A 専門医を受診して自分に合った漢方治療を行いましょう

―具体的にどのような症状によいのですか？

磯部先生（以下、磯）　婦人病のなかでは、更年期障害・冷え症・不定愁訴・月経不順、生理痛、月経前緊張症に漢方薬がよく使われています。また、無月経や不妊症にも使われることもありますよ。頭痛・肩凝り・めまい・五十肩・腰痛・下痢・便秘体質には、男女問わず、漢方薬や鍼灸を取り入れられています。

―健康保険は適用されるのですか？

磯　はい。医療用エキス製剤（煎じたものを粉末化したレディーメイドの方剤）すべてが健康保険の対象です。

―治療はどれくらいの期間続ければよいのでしょうか？　また、副作用が不安です。

磯　服薬期間は病気の種類や個人の体質によって異なります。服薬開始1カ月に症状の改善が認められる人もいますが、根治を目指すには6カ月以上継続して服用した方がいいですね。間違った使い方をしない限り副作用の心配はほとんどありませんよ。

―病院で処方される漢方薬は、薬局で買うものと何が違うのですか？　専門医を受診するメリットを教えてください。

磯　同じ漢方薬でも医療用製剤と一般用製剤があります。病院で医師が処方するのが医療用製剤で、薬局で売られているのが一般用製剤です。一般用の効果は、医療用の50～60％と言われます。漢方専門医は日本東洋医学会が行なう認定試験に合格した医師に与えられる資格です。専門医に診てもらえば、あなたに合った漢方薬を処方してくれるでしょう。